



## 特徴

神代じゃんご米／箱入り娘 あきたこまちは、仙北市神代(じんたい)地区で飼育している和牛を中心に、地域で生産された堆肥を、何回も切り返して混合された完熟堆肥を使用し栽培されています。お米づくりの副産物である稲ワラや籾殻は、和牛のエサや敷料として利用された後、再度堆肥として田んぼに返されるといった、地域循環型農業によって生み出されています。

秋田県の代名詞「あきたこまち」をしっかりとした土づくりと地域循環型農業のもと生み出された特別なあきたこまちは、神代じゃんご米／箱入り娘 あきたこまちなのです。

※「じゃんご」とは

秋田弁で「田舎」のことを言います。都会から遠く離れた田畑が多いところを言います。自然たっぷり、空気も澄んだ“じゃんご”では農産物がすくすく育ち、人も動物も穏やかに過ごしています。

例:おら、じゃんごたれだおの。じゃんごくせのだば、仕方ねべえ

訳:(私は田舎者だから、田舎くさい(あか抜けない)のは仕方ないです)

## 美味しさの特徴

粒の光沢や香りが優秀で、バランス良い味わい。いぶりがっこやお刺身、お寿司といった和食の他にも焼肉や中華料理との相性も良く、普段遣いできるオールラウンダーです。炊きたてはもちろん、冷めても美味しく、お弁当やおにぎりとしてもオススメです。しっかりとしたハリのある粒が口の中で存在感を示し、ほどよい粘りと甘み、香り高いのが特徴です。

## 栽培方法

イネづくりの基本となる土づくりのため、地元産牛堆肥を 750kg/10a 以上田んぼに投入するとともに、根・茎・葉を丈夫にし、暑さや日照不足でも光合成を維持し実りを高める効果のあるケイ酸質肥料「おぼこロマン大地」を土壌改良材として 60kg/10a 以上施用しています。

また、環境に負けず、分けつ(茎)をしっかりと確保するためには太く丈夫な苗が必要です。生産者相互で育苗ハウスを巡回、研修をしながら知識を共有、健苗育成への技術向上に取り組んでいます。

使用する肥料はこのお米のために生産者とJA、メーカーが一体となって作り上げた専用肥料を使った減化学肥料栽培(当地比 5 割減)です。

農薬の使用成分回数は、当地慣行栽培の 5 割減(10 成分以内)の減農薬栽培。お米の生育や品質に影響を及ぼす雑草は、防除計画に基づきながら、生産者自らも田んぼに入り除去しています。地域の自然とともに、生産技術でカバーしながら高品質米づくりに邁進しています。



## 栽培地域について

秋田県仙北市は、県の東部中央に位置し、岩手県と隣接している地域です。市のほぼ中央に水深が日本一である田沢湖(423.4m)があり、東に秋田駒ヶ岳、北に八幡平、南は仙北平野へと開けています。市内には、乳頭温泉や玉川温泉といった有名温泉地や、みちのくの小京都と呼ばれる角館の武家屋敷通りがあるほか、地域の約8割は森林地帯で、自然豊かな観光地という一面もあります。奥羽山脈から流れ出る水が大地を潤し、山々に囲まれた水田や水辺の風景など、昔ながらの姿を残した貴重な農村地帯にあります。

奥羽山脈と出羽山地に東西北を囲まれたところに仙北市神代(じんだい)地区があります。春になると一斉に農作業が始まり、田んぼに水が入れられると「水田鏡」となり、水田が多いこの地域はまるで湖の中に集落が点在するかのような景色が広がります。夏には「生保内東風(おぼねだし)」と呼ばれる冷たい東風が奥羽山脈から吹き下ろします。他地域では冷害を引き起こす風ですが、ここの地域では蒸し暑い空気を吹き流し、高温障害を避け、豊作を呼び込んでくれるため「宝風(たからかぜ)」とも呼ばれ、民謡でも歌い継がれています。夏の終わりからは、盆地特有の朝晩の気温の寒暖差が大きくなり、イネの実りを進めてくれます。

## 水と土質

冬の間には降り積もった雪や雨水をためて用水とする他に、地域には農業用水が整備されており豊富な用水をイネの生育と天候に合わせて使えるため、理想的な高品質米づくりに取り組むことができます。

地域の土壌は、水田として利用される「多湿黒ボク土」が多いのですが、本来「黒ボク土」はイネづくりには不利な土壌です。地域では先人達が行ってきた土づくりをさらに発展させ、地元産堆肥を30年以上にわたって田んぼに投入し、土の有機質増加に取り組んできました。現在、ここで美味しいコメが育てられるのは、そういった努力の下に、土を育ててきたからです。JA秋田おぼこ神代有機米生産研究会では、これからもイネだけでなく、土も育てていきます。

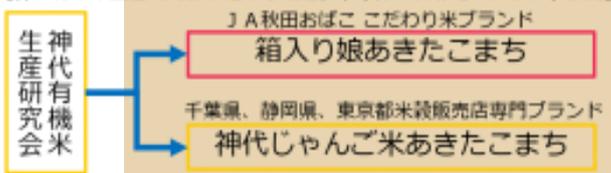
## 生産者

神代じゃんご米／箱入り娘 あきたこまちを栽培しているのは、「JA秋田おぼこ神代有機米生産研究会」です。土づくりと健苗育成に励み、良いコメづくりに向かって試行錯誤を続けて35年以上経ちました。「神代じゃんご米」ブランドで千葉県、静岡県、東京都の米穀販売店へ、JAブランド「箱入り娘」として、流通チャンネルに合わせたブランド展開を行いながら、消費者ニーズを取り入れた相互交流を重ねています。

栽培するお米は農薬・化学肥料を地域慣行栽培の半分以下で栽培し、一部会員は無農薬・無化学肥料栽培にも取り組むなど、あきたこまちのデビューと共に豊かな環境と土と地域を守っています。



【神代有機米生産研究会が進める流通チャンネルに合わせたブランド展開】



## 品種の系譜

「あきたこまち」は、1975年に福井県農業試験場でコシヒカリと奥羽292号を掛け合わせて作られたF1(雑種一代)品種をもとに開発が行われ、1982年、秋田県農業試験場によって「秋田31号」として誕生しました。

コシヒカリの血を受け継ぐ良食味と、平安時代の歌人で絶世美人「小野小町」にちなんだネーミングの良さと、良食味品種を目指したため、誕生以降、消費者に強い支持を得続けています。



## 令和4年産 箱入り娘 あきたこまち 栽培基準

### 農林水産省新ガイドラインによる表示

特別栽培米	
節減対象農薬	当地比 5 割減
化学肥料(窒素成分)	当地比 9 割減
栽培責任者	秋田おばこ農業協同組合 仙北市営農センター長
住所	秋田県仙北市田沢湖神代字街道南 100-20
連絡先	TEL 0187-44-3121
確認責任者	秋田おばこ農業協同組合 営農経済部長
住所	秋田県大仙市佐野町 5 番 5 号
連絡先	TEL 0187-86-0884

## 節減対象農薬の使用状況

使用資材名	用途	使用回数
クロチアニジン	殺虫	1
イソチアニル	殺菌	1
トリアファモン	除草	1
フェンキナトリオン	除草	1
フェントラザミド	除草	1
シハロホップブチル	除草	1
ベンタゾンナトリウム塩	除草	1
トリシクラゾール	殺菌	1
ジノテフラン	殺虫	1
エチプロール	殺虫	1

秋田神代じゅんご米ホームページより